

日本ペンクラブ女性作家委員会 文学イベント

第2回 作家が自作を語る

©freedesignfile.com

どんな思いを込めて、その小説を書いたのか……。創作の喜びと苦しみ、職業作家のたくらみと工夫、自信と不安、主人公への共感、現代社会と女性について思うところ、など、自由に語るひととき。作家の肉声が、あなたの読書を、さらに豊かに、深く、耕すでしょう。

開催日 2018年5月6日(日)

時間 午後2時～4時(午後1時30分開場)

会場 東京堂ホール
(東京都千代田区神田神保町 1-17 東京堂書店 6階)

出演

窪美澄(作家)『じっと手を見る』を語る



© ホンゴユウジ

中島京子(作家)『樽とタタン』を語る



平野 啓一郎(作家)『マチネの終わりに』を語る



撮影 瀧本幹也

司会 松本侑子(作家・翻訳家)



定員：100名・要予約(申込方法は裏面参照)※中学生以上

参加費：1000円 ※作家の本を販売、サインします。

主催 一般社団法人 日本ペンクラブ

協力 株式会社 東京堂

《出演者プロフィール》

窪美澄（くぼ・みすみ）

1965 年東京都生まれ。フリーの編集ライターを経て、2009 年第 8 回女による女のための R-18 文学賞大賞を受賞しデビュー。2011 年、受賞作を収録した『ふがいない僕は空を見た』で山本周五郎賞を受賞。2012 年『晴天の迷いクジラ』で山田風太郎賞を受賞。他の著作に『よるのふくらみ』『さよならニルヴァーナ』『やめるときもすこやかなるときも』（集英社）など。最新作は『じっと手を見る』（幻冬舎）。

中島 京子（なかじま・きょうこ）

1964 年東京都生まれ。東京女子大学文理学部史学科卒。編集者を経て 2003 年『FUTON』でデビュー。2010 年『小さいうち』で直木三十五賞受賞。2014 年『妻が椎茸だったころ』で泉鏡花賞、2015 年『長いお別れ』で中央公論文芸賞、『かたつのはらみ』で河合隼雄物語賞、柴田錬三郎賞を受賞。近著に『ゴースト』（朝日新聞社）、最新作は『樽とタタン』（新潮社）。

平野 啓一郎（ひらの・けいいちろう）

1975 年愛知県生まれ。1999 年、京都大学在学中に「新潮」に投稿した『日蝕』により芥川賞を受賞。著書は小説『葬送』『決壊』（芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞）『ドーン』（ドゥマゴ文学賞受賞）、エッセイ『私とは何か「個人」から「分人」へ』（講談社新書）等、多数。2016 年刊行の長編小説『マチネの終わりに』（毎日新聞出版・渡辺淳一文学賞）は 17 万部を超えるベストセラーとなった。

松本 侑子（まつもと・ゆうこ）

1963 年島根県生まれ。筑波大学卒。1987 年『巨食症の明けない夜明け』ですばる文学賞、2010 年『恋の蜚 山崎富栄と太宰治』で新田次郎文学賞受賞。シェイクスピア劇など英文学と聖書からの膨大な引用を解明した日本初の全文訳『赤毛のアン』（集英社文庫）。最新刊は、詩人・金子みすゞの伝記小説『みすゞと雅輔』（新潮社）。

《お申込方法》

希望参加者 1 名につき 1 通をご記入の上、いずれかの方法でお申込みください。

- ①電子メールでのお申込みの場合は、タイトルを「作家が自作を語る申し込み」とし、本文に、氏名、年齢、電話番号をお書きください。

送付先 secretariat03@japanpen.or.jp

- ②往復はがきでのお申込みの場合は、「往信用裏面」に氏名、年齢、郵便番号、ご住所、電話番号をお書きください。「返信用表面」に返信先の郵便番号、住所、氏名をお書きください。

送付先 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 20-3
日本ペンクラブ「作家が自作を語る」係

※折り返し入場整理券をお送りいたします。2 週間以内にメールまたは返信はがきでの連絡がない場合は、恐れ入りますが下記問い合わせ先にご連絡ください。

《会場地図》



最寄駅

- 東京メトロ半蔵門線「神保町駅」
- 都営新宿線「神保町駅」
- 都営三田線「神保町駅」

いずれも A7 出口より徒歩 3 分

お問い合わせ先 日本ペンクラブ事務局 TEL 03-5614-5391